

2. 事故の発生状況

事故の発生状況

脱線事故の3分の2は、踏切障害や自然災害等に原因があるものだが、それらを除いた鉄道事業者の保守や取扱いに原因があるもののうち、軌道等地上設備の保守状態に原因があるものの割合が大きく、さらに地域鉄道事業者^(注)の比率が高い。

(注) 地域鉄道事業者とは、中小民鉄及び、旧国鉄の特定地方交通線や整備新幹線の並行在来線などを引き継いだ第三セクターをいう。

この16年間で発生した190件の脱線事故について、事故調査報告書に基づいてその原因を分類しました。

踏切内に進入した自動車と衝突したなどの「踏切障害」や、線路脇の法面が崩落して流入した土砂に乗り上げたなどの「自然災害」などが125件（66%）と3分の2を占めています。

このほか、鉄道事業者の「軌道等地上設備の保守状態」や「運転の取扱い」などに原因がある脱線事故は65件（34%）発生しています。

この鉄道事業者に原因がある脱線事故65件について、その内訳を分類すると、

- ・ 軌道 : 軌道等地上設備の保守状態に関するもの（33件（51%））
- ・ 線路内工事 : 線路内工事の取扱いに関するもの（3件（5%））
- ・ 車両 : 車両の整備状態に関するもの（7件（11%））
- ・ 運転 : 運転の取扱いに関するもの（14件（22%））
- ・ 荷役作業 : 荷役作業の取扱いに関するもの（2件（3%））
- ・ 競合 : 複数の因子が悪い方向に競合したことによるもの（6件（9%））

となり、軌道に原因があるもの（以下、軌道原因という。）が33件（51%）と突出して多い状況にあります。（表2）

また、鉄道事業者別にみると、調査対象事故合計190件中、地域鉄道事業者の事故が68件（36%）であるのに対し、軌道原因の脱線事故では、33件中27件（82%）を地域鉄道事業者が占めています。（表2）

表1 脱線事故の発生状況（年次別の推移）

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計
調査対象鉄道事故全件数	20	23	20	24	16	19	13	11	9	14	20	15	14	13	23	19	273
脱線事故	14	20	19	21	13	14	7	5	6	12	15	12	9	6	8	9	190
脱線事故(うち 軌道原因)	2	2	2	1	2	3	4	1	0	1	3	3	1	2	3	3	33
脱線事故(うち 軌道原因・地域鉄道事業者)	2	2	2	0	2	3	2	1	0	0	2	2	1	2	3	3	27

表2 脱線事故の発生状況（分類別）

	鉄道事業者の保守や取扱いによるもの							それ以外のもの					合計
	軌道	線路内工事	車両	運転	荷役作業	競合	計	踏切障害	道路障害	交通事故	自然災害	計	
脱線事故	33	3	7	14	2	6	65	48	5	4	68	125	190
	51%	5%	11%	22%	3%	9%	—	38%	4%	3%	54%	—	
(うち 地域鉄道事業者)	27	0	1	8	1	0	37	16	5	0	10	31	68
	82%	0%	14%	57%	50%	0%	57%	33%	100%	0%	15%	25%	36%

←合計に対する割合
←分類別割合
←合計に対する割合
←地域鉄道事業者が占める割合

※ 道路障害：踏切以外の道路上で、路面電車が自動車と衝突したこと等によるもの

※ 交通事故：踏切障害・道路障害以外の自動車交通事故等の影響で、列車が線路上に落下した自動車や自動車の積荷と衝突したこと等によるもの

地域鉄道事業者で発生した軌道原因の脱線事故27件を、さらに詳細に分類すると、

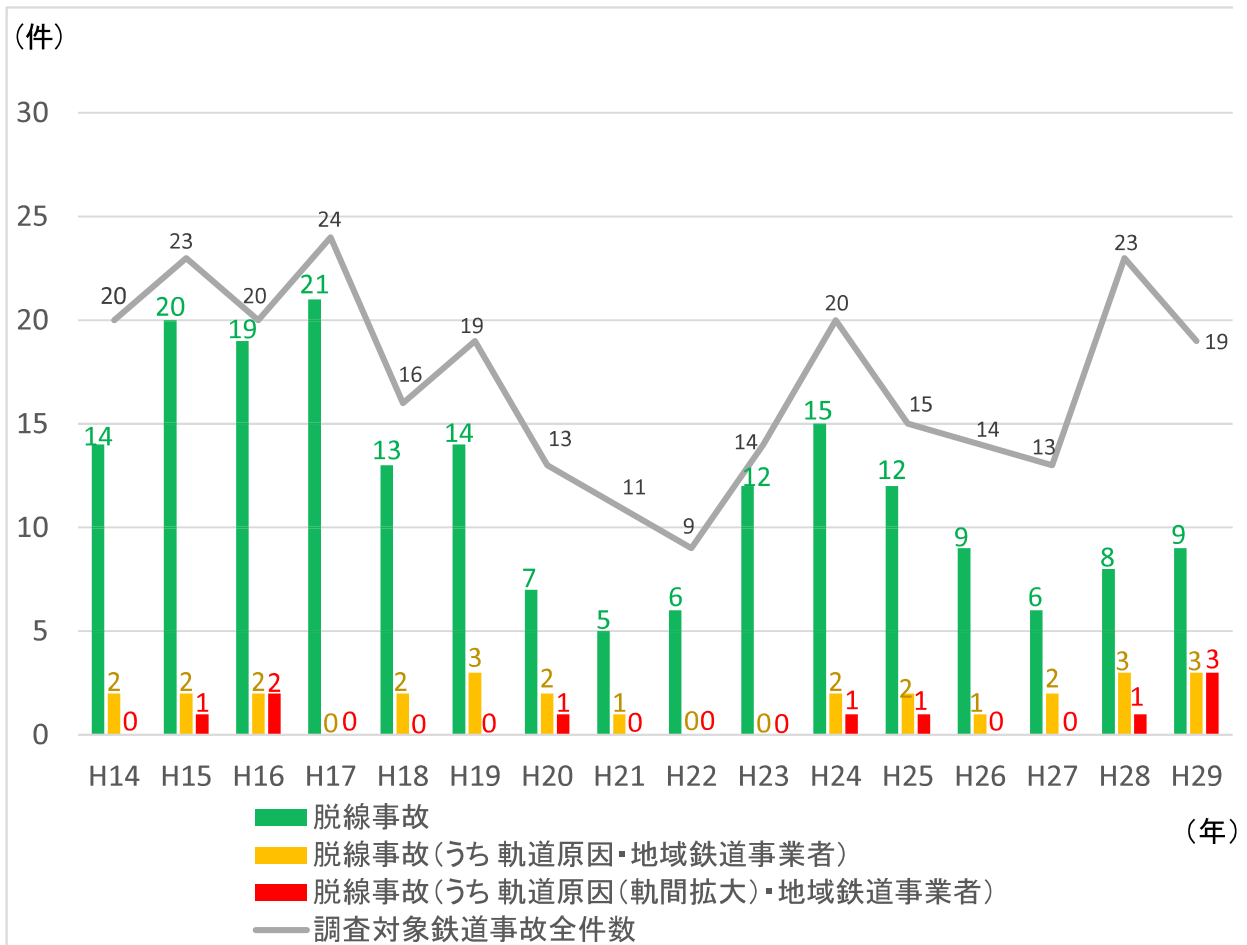
- ・ 軌間拡大によるものが10件
- ・ レール折損によるものが1件
- ・ 分岐器の軌道変位や転換不良等によるものが12件
- ・ その他上記以外の軌道変位等によるものが4件

となっています。(表3)

特に軌間拡大によるものについては、10件中4件が平成28年10月から平成29年5月までの間に発生しています。(図2)

表3 事故原因が軌道にある脱線事故の詳細な分類

軌道原因の分類	軌間拡大	レール折損	分岐器	その他	合計
軌道原因の脱線事故件数	11	1	14	7	33
(うち 地域鉄道事業者)	10	1	12	4	27
	91%	100%	86%	57%	82%



**図2 脱線事故件数の推移
(軌道原因による脱線事故に占める地域鉄道事業者の状況)**